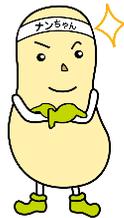


研究構想図



【学校目標】

- 進んで学びくふうする子
- 思いやりのある子
- 健康でたくましい子



【児童の実態】

- ・国語や算数の授業では、答えがはっきりしているものを問う場面では、すすんで挙手しているが、自分の思いを話したり、解答の道筋を説明したりする場面では、挙手が消極的になっている。
- ・課題に対して、自分なりの思いや考えをもてない児童が多い。
- ・考えをもていても、どのように表現したらよいか分からない児童が多い。
- ・ペアやグループで自分の考えを伝える児童が固定化している。
- ・語彙が少なく、基本的な言語能力が低い

【児童に身に付けさせたい力】

- ・学ぶことに興味・関心をもち、見通しをもって粘り強く取り組む力
- ・自分の考えもてる力
- ・意見交換したり、議論したりして新たな考えに気付いたり、自分の考えを広げたり深めたりする力
- ・教科の特質に応じた見方・考え方を働かせて、他の学習や生活の中に生かす力

【研究主題】

自分の考えをもち、**伝え合う**児童の育成～問題解決学習を通して～

【最終ゴール】

自分の考えを伝え、**深め合う**児童の育成～問題解決学習を通して～

【主題設定の理由】

昨年度までの校内研究で、主体的に学ぼうとする児童は増えてきているが、個人差があり、全体としての高まりには課題が見られる。学力テストの結果からも、本校の児童は、基本的な「知識・技能」の習熟に加え、「思考・判断・表現」における応用的な学習にも課題が見られた。

主体的に学ぼうとする児童同士が自分の考えをもち、**伝え合う**中で課題解決に向かっていける力を身に付けることで、「知識・技能」「思考・判断・表現」の向上が期待できる。

したがって、今年度は研究主題を「自分の考えをもち、伝え合う児童の育成～問題解決学習を通して～」とした。

【研究仮説】

「伝え合う活動」を支える表現方法（自分の考えのもたせ方）を学ばせたり、考えさせたりすることや、「伝え合う場」を効果的に取り入れたりすることで、児童は自分の考えをもち、伝え合う児童が育成できるのではないかと。

低学年…課題をとらえ、自らの考えをもち伝えることができる子

中学年…課題をとらえ、自らの考えを伝え合うことができる子

高学年…課題をとらえ、自らの考えを伝え合い、解決できる子

【研究の内容】

- ・仮説、主題に迫るための手立ての検証
 - ①自分の考えをもたせるための手立て
 - ②効果的に伝え合うため手立て
- ・研究授業の実施、研究成果の検証
- ・分科会による模擬授業の実施
- ・全教員の授業公開
- ・成果と課題の分析